

平成25年3月期第2四半期決算について

(金額単位:百万円)

百万円未満切捨て表示

1. 経営成績の概要

(1) 全体概況

- ・当期の決算は、東日本大震災等の影響を受けた前年同期からの反動により、旅客運輸収入が増加したほか、広告収入等の増加により、営業収益、営業利益、経常利益、四半期純利益がいずれも増加

上段:連結数値 下段:個別数値

	24年3月期	25年3月期	増減	
	第2四半期(累計)	第2四半期(累計)	金額	率
	A	B	B-A	(B-A)/A
営業収益	180,485 (162,945)	189,317 (172,522)	+8,832 (+9,577)	+4.9% (+5.9%)
営業費	142,665 (127,311)	142,903 (127,464)	+238 (+152)	+0.2% (+0.1%)
営業利益	37,819 (35,633)	46,413 (45,058)	+8,593 (+9,424)	+22.7% (+26.4%)
経常利益	29,141 (27,879)	38,274 (37,994)	+9,132 (+10,114)	+31.3% (+36.3%)
四半期純利益	17,075 (16,781)	23,522 (23,860)	+6,447 (+7,078)	+37.8% (+42.2%)
四半期包括利益	17,039	23,496	+6,456	+37.9%

① 営業収益 1,893億円 (前年同期比+88億円)

- ・震災等の影響を受けた前年同期からの反動により、旅客運輸収入が増加したほか、広告収入等の増加により、営業収益は増加

② 営業費 1,429億円 (前年同期比+2億円)

- ・主として当社の人件費及び減価償却費が減少したものの、電気料の増加等により、諸経費が増加した結果、営業費は前年同期並み

③ 営業利益 464億円 (前年同期比+85億円)

- ・営業外収益は、前年同期並みの4億円
- ・営業外費用は、支払利息の減少等により、4億円減少の85億円

[営業外損益 Δ81億円 (前年同期比+5億円)]

④ 経常利益 382億円 (前年同期比+91億円)

- ・特別利益は、工事負担金等受入額の減少等により、6億円減少の68百万円
- ・特別損失は、固定資産圧縮損の減少等により、5億円減少の2億円

[特別損益 Δ1億円 (前年同期比Δ1億円)]

⑤ 四半期純利益 235億円 (前年同期比+64億円)

(2)セグメント別概況

		24年3月期 第2四半期(累計) A	25年3月期 第2四半期(累計) B	増減	
				金額 B-A	率 (B-A)/A
運輸	営業収益 (うち対外部顧客)	159,090 (153,265)	168,458 (160,407)	+9,368 (+7,141)	+5.9% (+4.7%)
	営業費	125,274	125,118	△156	△0.1%
	営業利益	33,816	43,340	+9,524	+28.2%
流通・ 不動産	営業収益 (うち対外部顧客)	18,987 (18,945)	19,668 (19,641)	+681 (+695)	+3.6% (+3.7%)
	営業費	16,551	16,905	+354	+2.1%
	営業利益	2,435	2,763	+327	+13.4%
その他	営業収益 (うち対外部顧客)	8,762 (8,274)	9,828 (9,269)	+1,065 (+994)	+12.2% (+12.0%)
	営業費	7,229	9,548	+2,319	+32.1%
	営業利益	1,533	279	△1,254	△81.8%
調整額	営業収益 (うち対外部顧客)	△6,355 -	△8,638 -	△2,283 -	- -
	営業費	△6,389	△8,669	△2,279	-
	営業利益	34	31	△3	△9.6%
連結	営業収益 (うち対外部顧客)	180,485 (180,485)	189,317 (189,317)	+8,832 (+8,832)	+4.9% (+4.9%)
	営業費	142,665	142,903	+238	+0.2%
	営業利益	37,819	46,413	+8,593	+22.7%

①運輸業

- ・震災等の影響を受けた前年同期からの反動により、特に定期外の旅客運輸収入が増加したほか、広告媒体に係る広告料金収入が増加したことにより、増収増益

②流通・不動産事業

- ・Echika fit銀座、渋谷ヒカリエの開業や店舗のリニューアル効果等により増収増益

③その他事業

- ・震災等の影響を受けた前年同期からの反動に伴う顧客への広告販売の増加等により、増収となったものの、それ以上に広告媒体の仕入額が増加したことにより、減益

2. 財政状態及び長期債務の概要

- ・ 当期末の総資産額は、譲渡性預金等の流動資産が減少したことや固定資産の減価償却が進行したことにより、前期末比140億円の減少
- ・ 当期末の負債額は、長期債務の返済等により、前期末比271億円の減少
- ・ 当期末の純資産額は、主として四半期純利益の繰入により、前期末比130億円の増加

	24年3月期 期末 A	25年3月期 第2四半期末 B	増減	
			金額 B-A	率 (B-A)/A
資産合計	1,269,863	1,255,797	△14,065	△1.1%
負債合計	884,060	856,956	△27,103	△3.1%
純資産合計	385,802	398,841	+13,038	+3.4%
長期債務残高	705,668	679,180	△26,488	△3.8%
自己資本比率	30.4%	31.8%	-	-
D/E レシオ	1.8倍	1.7倍	-	-

(注1 長期債務残高=長期借入金残高+社債残高)

(注2 D/Eレシオ=長期債務残高/純資産額)

3. キャッシュ・フローの概要

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フローは、営業収益の増加等により、前年同期比155億円の収入増となる561億円の資金の流入
- ・ 投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資を中心に、前年同期比25億円の支出減となる369億円の資金の流出
- ・ 財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の発行があったものの、長期債務の返済及び配当金の支払いにより、前年同期比318億円の支出増となる331億円の資金の流出

	24年3月期 第2四半期(累計) A	25年3月期 第2四半期(累計) B	増減 金額 B-A
営業活動による キャッシュ・フロー	40,642	56,199	+15,556
投資活動による キャッシュ・フロー	△39,488	△36,984	+2,504
(フリー・ キャッシュ・フロー)*	(1,153)	(19,214)	(+18,061)
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,297	△33,116	△31,819
現金及び現金 同等物の増減額	△143	△13,901	△13,757
現金及び現金 同等物の期末残高	26,076	27,808	+1,731

*(フリー・キャッシュ・フロー)=営業活動によるキャッシュ・フロー+投資活動によるキャッシュ・フロー

【参考1】平成25年3月期第2四半期 連結損益計算書

(単位:百万円)	24年3月期 第2四半期 (累計) A	25年3月期 第2四半期 (累計) B	増減		主な増減要因
			金額 B-A	率 (B-A)/A	
営業収益	180,485	189,317	+8,832	+4.9%	旅客運輸収入 +6,319 広告収入 +782
営業費	142,665	142,903	+238	+0.2%	
営業利益	37,819	46,413	+8,593	+22.7%	
営業外収益	361	421	+60	+16.7%	
営業外費用	9,038	8,560	△478	△5.3%	
(うち支払利息)	(8,918)	(8,445)	(△472)	(△5.3%)	
経常利益	29,141	38,274	+9,132	+31.3%	
特別利益	726	68	△657	△90.6%	工事負担金等受入額 △440
特別損失	727	220	△506	△69.7%	固定資産圧縮損 △507
税金等調整前 四半期純利益	29,141	38,122	+8,981	+30.8%	
四半期純利益	17,075	23,522	+6,447	+37.8%	

(百万円未満切捨て表示)

【参考2】平成25年3月期第2四半期 連結貸借対照表

(単位:百万円)	24年3月期 期末 A	25年3月期 第2四半期末 B	増減		主な増減要因
			金額 B-A	率 (B-A)/A	
流動資産	87,062	79,395	△7,667	△8.8%	譲渡性預金等 前払費用 △23,499 +4,997
現金及び預金	18,215	27,812	+9,597	+52.7%	
その他	68,847	51,582	△17,264	△25.1%	
固定資産	1,182,800	1,176,402	△6,397	△0.5%	
有形固定資産	1,062,393	1,057,109	△5,284	△0.5%	
無形固定資産	85,822	84,016	△1,806	△2.1%	
投資その他の資産	34,584	35,276	+692	+2.0%	
資産合計	1,269,863	1,255,797	△14,065	△1.1%	
流動負債	157,068	136,846	△20,222	△12.9%	
1年内返済長期借入金 及び1年内償還社債	50,780	33,922	△16,858	△33.2%	
未払金	35,335	21,817	△13,518	△38.3%	
未払法人税等	9,857	16,709	+6,851	+69.5%	
前受運賃	14,119	15,257	+1,138	+8.1%	
その他	46,975	49,140	+2,165	+4.6%	
固定負債	726,991	720,110	△6,881	△0.9%	
社債	390,000	390,000	-	-	
長期借入金	264,888	255,258	△9,630	△3.6%	
退職給付引当金	52,776	54,100	+1,324	+2.5%	
その他	19,327	20,751	+1,423	+7.4%	
負債合計	884,060	856,956	△27,103	△3.1%	
純資産	385,802	398,841	+13,038	+3.4%	
負債・純資産合計	1,269,863	1,255,797	△14,065	△1.1%	

(百万円未満切捨て表示)

【参考3】平成25年3月期第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	24年3月期 第2四半期 (累計)	25年3月期 第2四半期 (累計)	増減 金額	主な増減要因
	A	B	B-A	
営業活動によるキャッシュ・フロー	40,642	56,199	+15,556	
税金等調整前四半期純利益	29,141	38,122	+8,981	
減価償却費	37,431	35,507	△1,924	
営業債権の増減額	△1,268	1,961	+3,230	
その他	△12,056	△10,009	+2,047	
法人税等の支払額	△12,604	△9,382	+3,222	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△39,488	△36,984	+2,504	
設備投資額	△41,677	△38,495	+3,182	
補助金の受入による収入	2,328	511	△1,817	
その他	△139	999	+1,139	
(フリー・キャッシュ・フロー)	1,153	19,214	+18,061	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,297	△33,116	△31,819	
長期借入れ及び社債の発行による収入	35,000	9,943	△25,056	
長期借入金の返済及び社債の償還による支出	△26,947	△32,532	△5,585	
配当金の支払額	△9,296	△10,458	△1,162	
その他	△53	△69	△15	
現金及び現金同等物の増減額	△143	△13,901	△13,757	
現金及び現金同等物の期首残高	26,220	41,709	+15,489	
現金及び現金同等物の期末残高	26,076	27,808	+1,731	

(百万円未満切捨て表示)

【参考4】平成25年3月期第2四半期 個別損益計算書

(単位:百万円)	24年3月期 第2四半期 (累計) A	25年3月期 第2四半期 (累計) B	増減		主な増減要因
			金額 B-A	率 (B-A)/A	
鉄道事業営業収益	158,150	167,217	+9,066	+5.7%	
旅客運輸収入	143,201	149,521	+6,319	+4.4%	定期 +1,879 定期外 +4,440
鉄道線路使用料収入	933	818	△115	△12.3%	
運輸雑収	14,016	16,877	+2,861	+20.4%	広告料金収入 +2,307 車両使用料 +586
鉄道事業営業費	124,639	124,562	△77	△0.1%	
人件費	42,732	41,978	△753	△1.8%	労務構成の変化等による減 電気料 +2,183 車両使用料 +467
経費	41,714	44,332	+2,618	+6.3%	
諸税	4,294	4,375	+81	+1.9%	
減価償却費	35,899	33,876	△2,023	△5.6%	
鉄道事業営業利益	33,510	42,654	+9,143	+27.3%	
関連事業営業収益	4,794	5,305	+511	+10.7%	
関連事業営業費	2,671	2,901	+230	+8.6%	
関連事業営業利益	2,123	2,404	+281	+13.2%	
全事業営業利益	35,633	45,058	+9,424	+26.4%	
営業外収益	1,284	1,511	+227	+17.7%	
営業外費用	9,038	8,576	△462	△5.1%	支払利息 △468
経常利益	27,879	37,994	+10,114	+36.3%	
特別利益	720	64	△655	△91.0%	工事負担金等受入額 △440
特別損失	698	155	△543	△77.8%	固定資産圧縮損 △507
税引前四半期純利益	27,900	37,903	+10,002	+35.9%	
四半期純利益	16,781	23,860	+7,078	+42.2%	

(百万円未満切捨て表示)

【参考5】平成25年3月期第2四半期 個別貸借対照表

(単位:百万円)	24年3月期 期末 A	25年3月期 第2四半期末 B	増減		主な増減要因
			金額 B-A	率 (B-A)/A	
流動資産	81,850	72,800	△9,050	△11.1%	譲渡性預金 前払費用 +4,898
現金及び預金	16,485	26,221	+9,736	+59.1%	
未収金	8,387	7,394	△992	△11.8%	
短期貸付金	8,006	6	△7,999	△99.9%	
有価証券	15,500	-	△15,500	△100.0%	
その他	33,471	39,177	+5,705	+17.0%	
固定資産	1,181,738	1,175,552	△6,185	△0.5%	
鉄道事業固定資産	1,043,364	1,035,328	△8,036	△0.8%	
関連事業固定資産	35,341	39,764	+4,423	+12.5%	
各事業関連固定資産	16,485	16,243	△242	△1.5%	
建設仮勘定	44,997	41,990	△3,007	△6.7%	
投資その他の資産	41,549	42,226	+676	+1.6%	
資産合計	1,263,589	1,248,352	△15,236	△1.2%	
流動負債	167,570	146,105	△21,464	△12.8%	
1年内返済長期借入金	40,780	23,922	△16,858	△41.3%	
1年内償還社債	10,000	10,000	-	-	
未払金	34,711	20,955	△13,756	△39.6%	
未払法人税等	8,736	15,906	+7,169	+82.1%	
その他	73,341	75,321	+1,980	+2.7%	
固定負債	720,723	713,577	△7,145	△1.0%	
社債	390,000	390,000	-	-	
長期借入金	264,888	255,258	△9,630	△3.6%	
退職給付引当金	50,318	51,460	+1,141	+2.3%	
その他	15,516	16,859	+1,343	+8.7%	
負債合計	888,293	859,683	△28,609	△3.2%	
純資産	375,295	388,669	+13,373	+3.6%	
株主資本	375,276	388,679	+13,402	+3.6%	
評価・換算差額等	18	△9	△28	-	
負債・純資産合計	1,263,589	1,248,352	△15,236	△1.2%	

(百万円未満切捨て表示)

【参考6】平成25年3月期第2四半期 運輸成績の概要

区分	輸 送 人 員			
	24年3月期 第2四半期(累計) A	25年3月期 第2四半期(累計) B	増減	
			人員 B-A	率 (B-A)/A
	千人	千人	千人	%
定 期	657,464 (3,593)	677,357 (3,701)	+19,892	+3.0
定 期 外	476,306 (2,603)	503,816 (2,753)	+27,509	+5.8
合 計	1,133,771 (6,195)	1,181,173 (6,455)	+47,402	+4.2

区分	旅 客 運 輸 収 入			
	24年3月期 第2四半期(累計) A	25年3月期 第2四半期(累計) B	増減	
			金額 B-A	率 (B-A)/A
	百万円	百万円	百万円	%
定 期	63,579	65,459	+1,879	+3.0
定 期 外	79,621	84,062	+4,440	+5.6
合 計	143,201	149,521	+6,319	+4.4

(注) 1. ()内は一日平均

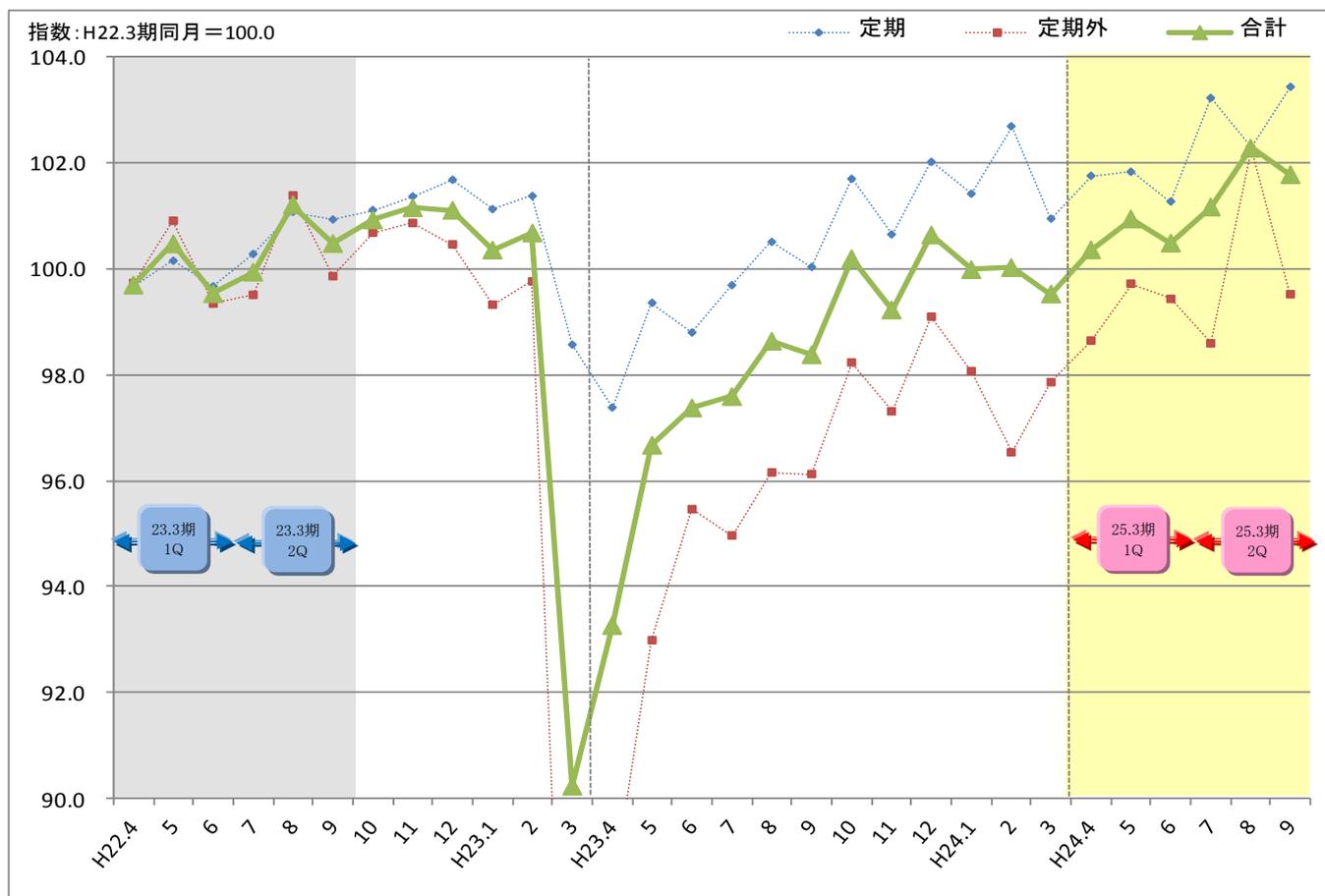
2. 単位未満切捨て表示(一日平均輸送人員は除く)

【参考7】平成25年3月期第2四半期 輸送人員の状況

● 輸送人員は順調に回復

東日本大震災以降、輸送人員は大きく落ち込みましたが、その後は順調に回復しています。25年3月期に入ってから、各月別の輸送人員(曜日構成調整済み)は東日本大震災以前(23年3月期の同月)の水準を上回って推移しています。特に定期が好調です。

輸送人員(曜日構成調整済み)の推移



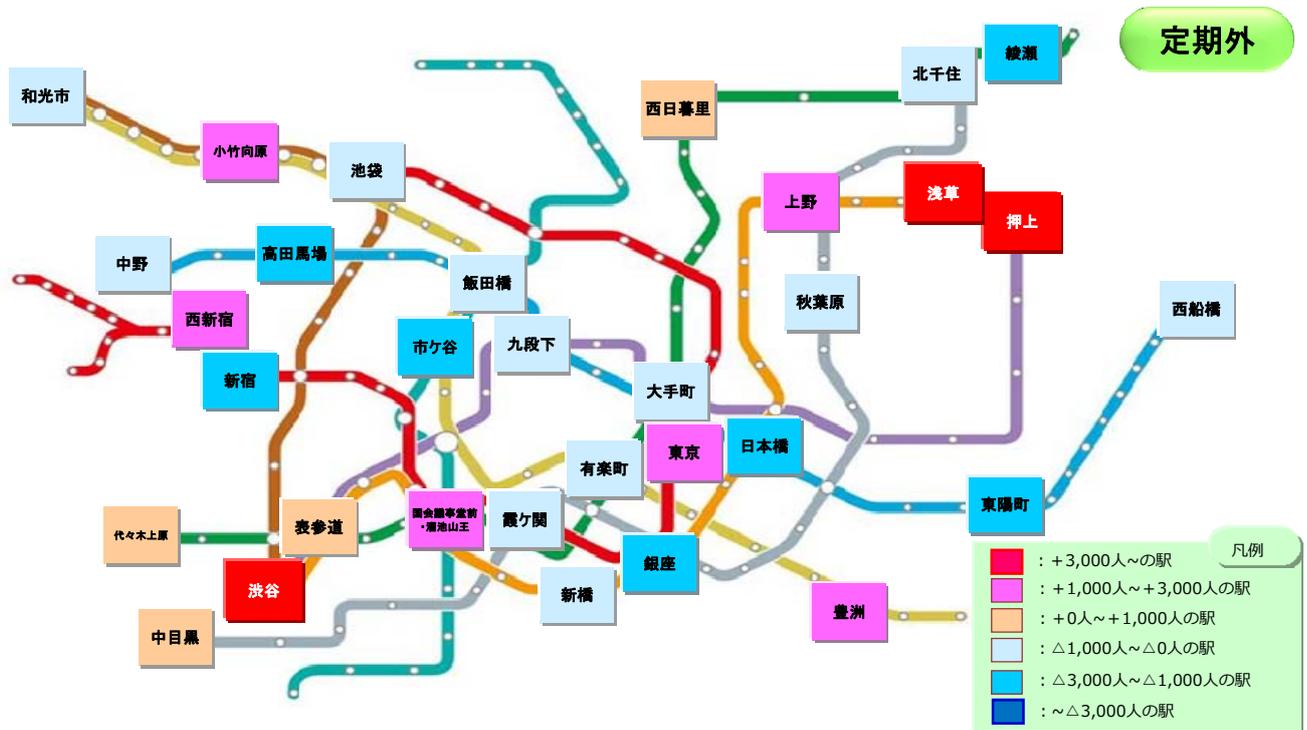
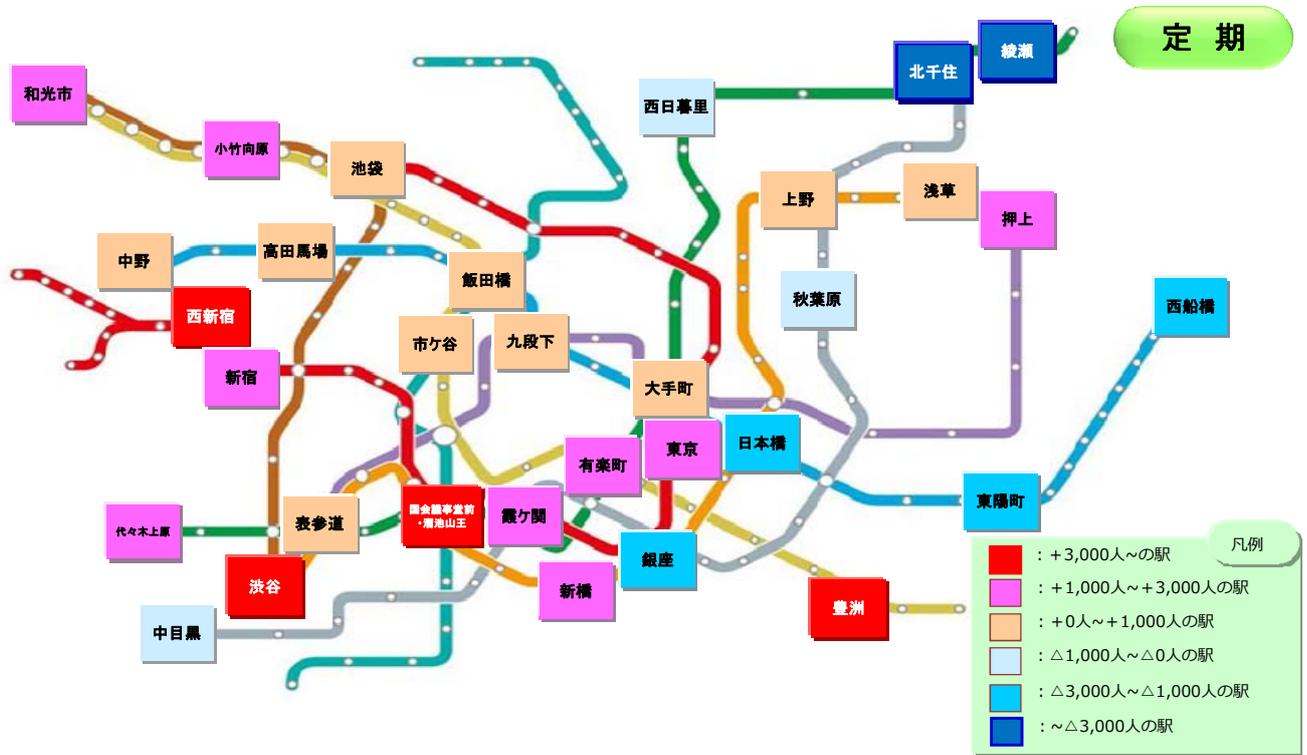
● 輸送人員の回復の背景は都心部へのオフィス集積や都市再開発があると推測

定期の順調な伸びの背景としては、大規模な再開発事業などにより、都心部や副都心において、優良なオフィスの大量供給が続いていること等があげられます。都心部や副都心では、オフィスの大量供給等により、従業員人口も増加していると推測しています。

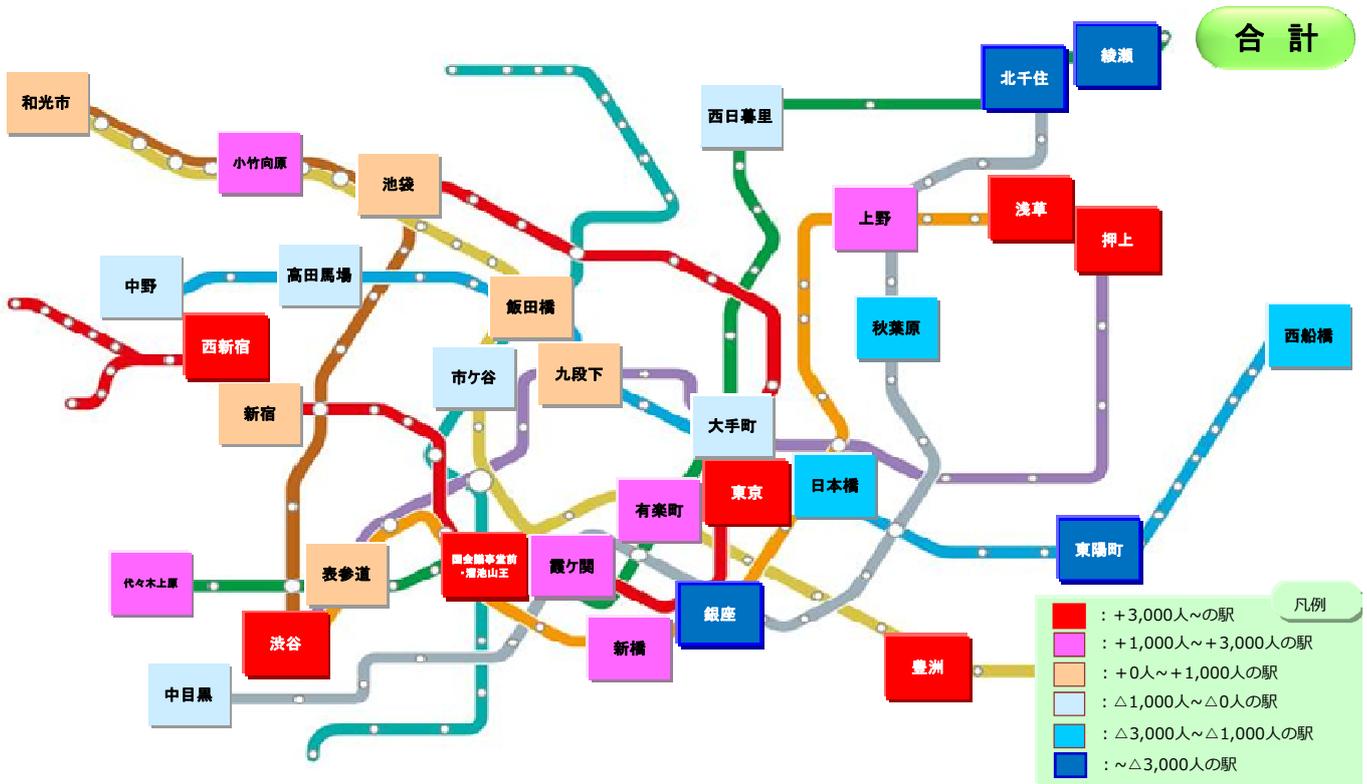
また、オフィスの増加によって、定期だけでなく、業務上等の定期外の需要が刺激されていることに加え、特に東京スカイツリーの開業効果により定期外が一段の回復を示したことも、輸送人員全体の好調を下支えしていると考えています。

● 主要駅における震災前(23年3月期)との1日平均乗車人員の比較

定期は、震災前と比較すると、都心・副都心のビジネスエリアが好調となっています。
 定期外は、震災前と比較すると目立った減少駅は少ないものの、多くの駅で「薄く広く」減少しています。東京スカイツリーの影響により押上、浅草、上野等の駅が好調です。都心・副都心のビジネスエリアは定期外についても比較的好調です。



合計では、震災前と比較すると、都心・副都心のビジネスエリアと東京スカイツリー関連の駅が好調となっています。



【参考8】平成25年3月期第2四半期における当社グループの主な取組

1. 安全の確保に向けた取組のさらなる充実

●自然災害対策の推進

・大規模水害に備えた浸水対策の実施

水深6mの水圧に対応できる新型浸水防止機(従来は2m対応)への更新を実施し、これまでに、換気口19箇所に対して98基を設置したほか、駅出入口に海拔表示を順次実施しています。

さらに今後は、換気口※1に加え、出入口※2及び坑口※3への浸水対策を進めます。

対象箇所数※1 102箇所 ※2 229箇所 ※3 4箇所



新型浸水防止機

・通信環境整備の実施

地下駅構内及びトンネル内における通信環境の整備を進めました。

携帯電話について、利用可能なエリアを大幅に拡大し、平成24年度中の全線(有楽町線・副都心線小竹向原駅～千川駅間を除く)でのサービス開始へ向けた整備を進めます。

通信環境の整備状況(平成24年11月9日時点)

<携帯電話サービス>

銀座線(神田駅～銀座駅間) 丸ノ内線(茗荷谷駅～淡路町駅・新中野駅～荻窪駅間) ※1

日比谷線(築地駅～中目黒駅間) ※2 千代田線(綾瀬駅～湯島駅間) 南北線(市ヶ谷駅～赤羽岩淵駅間)

<WiMAX>

丸ノ内線 中野富士見町駅構内

※1 丸ノ内線新中野駅～荻窪駅間 平成24年11月12日サービス開始予定

※2 日比谷線築地駅～日比谷駅間 平成24年11月15日サービス開始予定

・防災用品の追加配備の実施

帰宅困難者対策として、配備済みの飲料水及びアルミ製のブランケットのほか、追加品目として全駅分の簡易マット、救急用品、簡易トイレ及び携帯用トイレを配備しました。

現在配備している品目(当社が管理する全駅分)(平成24年9月末時点)

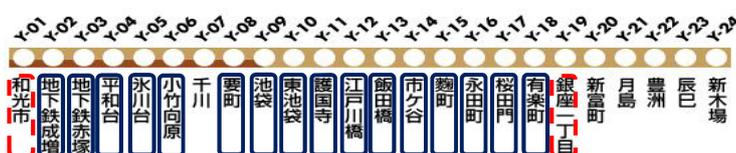
- ・飲料水及びアルミ製ブランケット(約10万人分)
- ・簡易マット(約10万人分)
- ・救急用品(消毒液・包帯・脱脂綿・絆創膏・ガーゼ)
- ・簡易トイレ(約3万人分)
- ・携帯用トイレ(約10万人分)

●ホームドアの設置

お客様に安心してご利用いただけるよう、ホームでの転落事故、接触事故の防止等を目的として、有楽町線和光市駅及び銀座一丁目駅にホームドアを設置しました。

引き続き、有楽町線全駅での設置を進める*とともに、銀座線への設置へ向けた調査を実施します。

※平成25年度完成予定



ホームドア整備率

平成23年度末 42% (76駅/179駅)

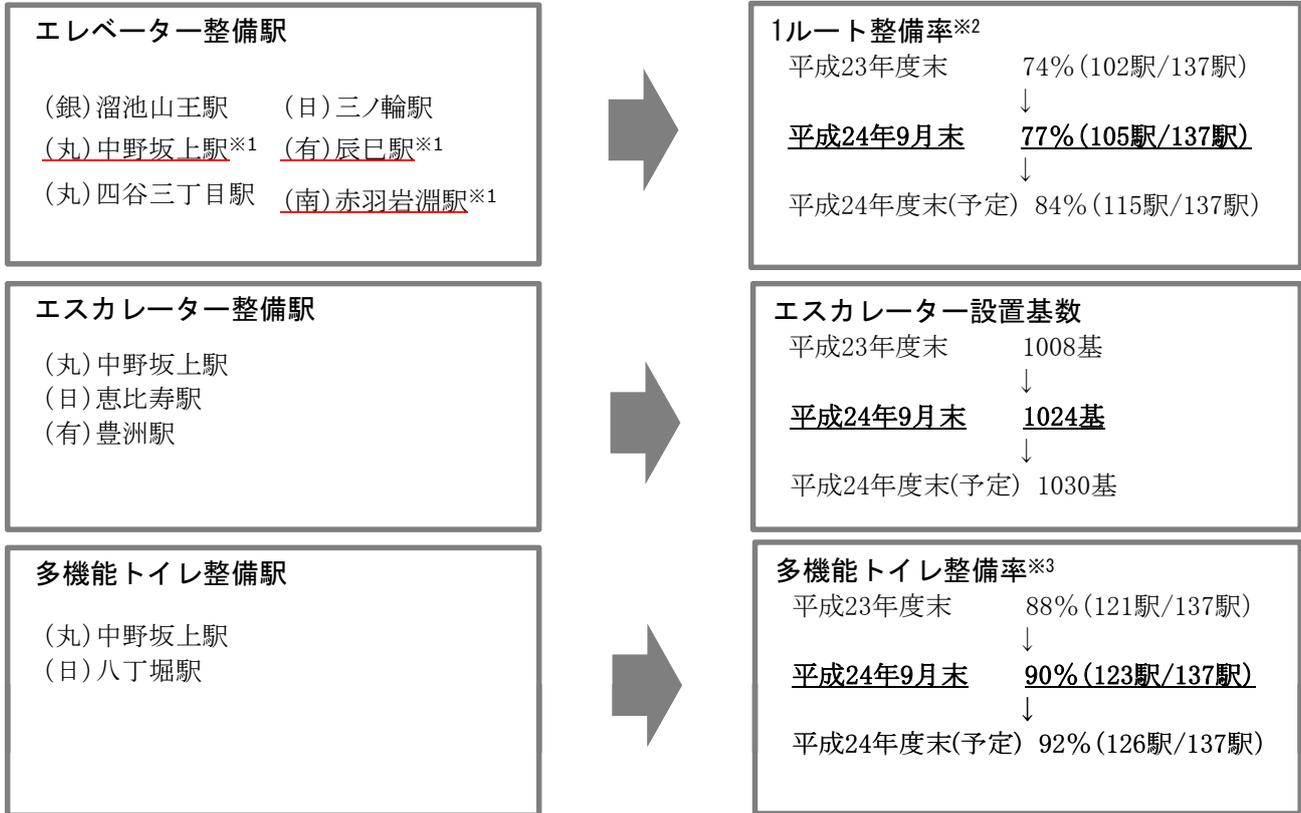
↓

平成24年9月末 44% (78駅/179駅)

2. 鉄道サービスのさらなる質的向上

●バリアフリー設備の整備の推進

全てのお客様が安心して気軽にご利用いただけるよう、新たに、エレベーターを6駅8基、エスカレーターを3駅16基、多機能トイレを2駅2箇所整備しました。引き続き、できる限り速やかに1ルート整備率100%を目指し整備を推進します。



※1 新たに1ルート整備を実施した駅
 ※2 1ルート整備率とは、エレベーター等により段差が解消されたルートを確認している駅の割合
 ※3 多機能トイレ整備率とは、車椅子対応トイレも含めた割合

●副都心線のネットワーク拡大及び輸送の安定化

平成25年3月16日に開始する副都心線と東急東横線・横浜高速みなとみらい線との相互直通運転に向け、準備を進めています。

相互直通運転開始により、副都心線を中心とした、広域的な鉄道ネットワークが形成されるとともに、乗換なしで横浜駅から新宿三丁目駅まで最短32分で結ばれるなど、横浜エリアから副都心(渋谷・新宿・池袋)エリアへの利便性が大幅に向上します。

ネットワークの拡大を踏まえ、さらなる輸送の安定化を図るため、副都心線と有楽町線が平面交差する小竹向原駅～千川駅間の立体交差化工事※1や、豊洲駅折返線の設置工事※2を進めたほか、有楽町線全線において新CS-ATCへの切替等を行いました。

※1 小竹向原駅→千川駅 平成24年度完成予定
 千川駅→小竹向原駅 平成27年度完成予定
 ※2 平成25年度完成予定(供用開始は平成24年度から)



小竹向原駅～千川駅間
連絡線設置工事

●東西線の遅延及び混雑緩和対策

茅場町駅において、ホームの延伸や階段・エスカレーターの位置の変更を行い、乗降時間の短縮を図るための工事に取り組んでいます※1。

また、門前仲町駅において、ホームを拡幅し、乗降時間の短縮を図るとともに、大江戸線との乗換えがスムーズにできるための改良工事を推進しています※2。

さらに、南砂町駅では、線路・ホームの増設工事に着手しました。これにより、同一方向に進む列車が交互に発着することが可能となり、遅延の防止が期待できます※3。



南砂町駅ホーム及び線路増設イメージ

※1 平成28年度完成予定 ※2 平成25年度完成予定 ※3 平成32年度完成予定

3. 関連事業、社会との調和

●ソラチカカードの会員募集

『マイルやポイントがより貯まりやすく』をコンセプトとし、ANA及び提携航空会社のマイレージが貯まる「ANAカード」と、メロポイントが貯まるPASMO機能付き「To Me CARD」の機能を一体化した「ANA To Me CARD PASMO JCB（愛称：ソラチカカード）」の会員募集を平成24年3月から開始しました。

会員数は順調に増加しており、平成24年9月末時点で、約4万6千人となっています。



ソラチカカード

●太陽光発電システムの導入（東西線妙典駅）

環境にやさしい地下鉄を目指し「みんなでECO. 東京メロ・エコプロジェクト」を展開しており、平成24年9月に東西線妙典駅に太陽光発電システムを導入しました。



妙典駅太陽光発電システム

【参考】平成25年3月期における個別設備投資実績

平成25年3月期第2四半期は、旅客サービスや安全対策を中心に292億円の設備投資を実施しました。引き続き、安全の確保や鉄道サービスのさらなる質的向上を目指し、平成25年3月期において総額895億円の投資を行う予定です。

